

## Unit 8 好きな有名人について対話しよう

### 4 min Chat

A: I like 有名人やキャラクター.

Do you know him (her)? 彼(彼女を知ってる?)

B: I don't know. Who is 有名人やキャラクター?

A: He (She) is 身分や職業など.

He (She) is 年齢や性格・容姿など.

He (She) 習った一般動詞を使って.



### 質問例

- なぜ好きなの? Why do you like him (her)?
- かっこいいから。 Because he (she) is cool.
- あなたはどうか? How about you?
- 彼(彼女)は何が~? What does he (she) 一般動詞?
- 彼(彼女)は何の〇〇が~? What 〇〇 does he (she) 一般動詞?

※疑問詞 What Who What time Which Where Whose How many How old

### 会話を続けるコツ

- よく聞き、質問しよう! ※ Yes. No.で答えられる質問 → 疑問詞で始まる質問
- 一言で終わらず、情報を付け加えよう。
- Really? (本当?) Me, too. (私もです。)などで反応しよう。

### 〇あいづち

Uh-huh. ドゥルル そうですね。 I see. ヤー なるほど。 Yeah. ドゥルル そうですね。

That's true. ドゥルル 確かにそうです。 Right. ドゥルル そうですね。 Great. ドゥルル いいですね。

Cool! ドゥルル それはいい!

### 〇沈黙を埋める言葉

Well / hmm ドゥルル え〜と Let's see. ドゥルル そうですね。 you know ドゥルル ほら I mean ドゥルル つまり so ドゥルル それで

### 〇聞き取れなかった時

Pardon? ドゥルル もう一度言ってもらえますか? What did you say? ドゥルル 何と言ったの?

Sorry, I didn't hear you. ドゥルル すみません、聞き取れませんでした。

Could you speak more slowly? ドゥルル もっとゆっくり話してもらえますか?

- 相手の言ったことを繰り返そう。
- 特定の人ばかり話さず、他の人に話をふろう。 → How about you?

### Reflection (振り返り)

〇 対話を終えて、①~⑤ができたならレ (チェックマークを入れよう!)

1回目 ① ② ③ ④ ⑤ 2回目 ① ② ③ ④ ⑤

3回目 ① ② ③ ④ ⑤ 4回目 ① ② ③ ④ ⑤

# 〈CAN-DO 振り返りシート〉

**渡利中CAN-DO「話すこと（やりとり）」**  
**3往復程度の短い対話で、自分の考えや気持ちを正しく伝え合うことができる。**

	話をよく聞き質問する	反応する	正しく伝える	話を振る	意欲
Unit 5	A・○・B・・・C	A・・・B・○・C	A・・・(B)・・・C	A・・・B・○・C	A・○・B・・・C
振り返り（好きな教科） 良かったところと改善点を書こう！ 改善点は、相手が話したときに <u>反応すること</u> 、 <u>話を振ること</u> です。あまりうまくしゃべれなくても意欲を失わないようにしたいです。 <u>あなはあたい!</u> <u>あせろ!</u> <u>言葉がうれしくていいはあ程度母問がわかりましたか。よく見たよ</u>					
Unit 8	A・○・B・・・C	A・○・B・・・C	A・・・(B)・・・C	A・○・B・・・C	(A)・・・B・・・C
振り返り（好きな有名人） ・いつもよりよく反応することができた。 ・楽しく会話できて意欲もいた。 ・たまに日本語でしゃべり、しまったたりしたので気をつけたい。 ・あまり質問などをすることができなかつたので 次からは Whatや Whyなどを使、 <u>経験文を覚えておきたい。</u>					
Presentation 2	A・・・B・・・C	A・・・B・・・C	A・・・B・・・C	A・・・B・・・C	A・・・B・・・C
振り返り（1日の生活）					
振り返り（思い出の行事）					

この生徒は、「反応する」、「話を振る」項目を自己評価で上げている。また、生徒の振り返りの記述に対し、ポジティブなフィードバックを行うことで、言語活動に対するモチベーションも上げることができた。

達成状況を把握するためには、「振り返り」を授業の最後だけに行うのではなく、言語活動の度に行い、生徒が自分の課題を明確にしながらかの言語活動に臨めるよう、形成的評価を工夫するようにしている。今までの言語活動の振り返りシートは単元ごとに1枚ずつあり、技能ごとにまとまっているようなものはあまり見られなかった。そのため、つながりや改善すべきことについて把握するのが面倒であり、生徒それぞれの課題があいまいなままであった。そこで、技能ごとに年間の成長が一目でわかるよう、1枚の振り返りシートを作成した。